



α-Mo'COOL FESTA '06

@新風館

Watching Carefully

取材・文/坂東寛士(本誌) 撮影/畑中勝知

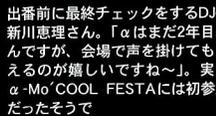
街と人と音を繋いで、
 辿り着いた15年目の夏。
 節目を迎え、
 リスタートする
 ボクらのラジオ。

オフィスで車であなたの部屋で、今や京都で生活していれば、当たり前のようにそばにあるα-STATIONが開局15周年を迎えた。で、祇園祭・宵山であった7月16日、祭り気分に浮き足立つ人々にトドメの一撃とばかりに開催された本イベント。

「15年で日本の音楽シーンは変わりましたね。(開局) 当時はロック至上主義でDJやってるなんて言えませんでしたよ(笑)。今流行りのブラックミュージックがカルチャーとして浸透するなんて、昔は誰も想像できなかったですよ」と、α-STATIONの藤本さん。jazzyakuza名義で京都クラブシーンの黎明期からDJ(回すほうね)としてシーンを牽引してきた人でもある。この開局当時から京都の音の現場にいた人たちの言葉を借りれば、大切なのは「『何年続いた』という話ではなく、ラジオを音楽シーンをどれだけ身近に伝えていけるか」である。街場の音と密接に繋がるFM局ならではの展開に期待を抱く、それが我々リスナーのこれからの楽しみじゃないだろうか？



ゲストライブは「いきものがかり」「田中ロウマ」「つきよみ」「RAG FAIR」。次世代の気鋭アーティストから大御所まで、バランスの取れたブックリングはさすがです



やっぱりα-STATIONといえばこの人、DJの谷口キヨコさん。「15周年は私にとっても区切りだと思うので、より一層楽しい番組をやりたいですね。20周年もまた皆さんと一緒にできたらいいな〜」



「これから20周年も目指して頑張りま〜す」とDJの川原ちかよさん。お隣はα-STATION開局メンバーの1人、藤本さん。

今回の特番イベントを取り仕切っていたプロデューサーの城さん。「15年やってきたと言っても、京都では100年続いて老舗ですから。まだまだこれからです。なんとくクールな一言

「ボくら2人はα-STATIONでDJを始めて3年目の同級生なんです。次の20周年に向けて共に頑張ります」「上手いことまとめたねえ、さすがDJ(笑)」と、DJのマツモトアキノリさんと慶元まさ美さん

